

令和4年度 第3回伊勢市環境審議会 記録概要

1. 日時 令和5年1月19日(木) 18:30~20:00
2. 場所 伊勢市役所 本庁舎東館 4-3 会議室
3. 委員  
杉田 英男 (公共の団体：伊勢湾漁業協同組合)  
杉山 謙三 (公共の団体：伊勢市総連合自治会)  
竜田 和代 (公共の団体：伊勢市女性団体連絡協議会)  
高橋 克彦 (公共の団体：伊勢市環境会議)  
上田 ふき子 (公共の団体：伊勢小俣商工会)  
山村 直紀 (学識者：三重大学)  
平山 大輔 (学識者：三重大学)  
中松 豊 (学識者：皇學館大学)  
松永 彦次 (神宮司廳)  
奥田 哲也 (三重県南勢志摩地域活性化局)  
岡本 忠佳 (公募)  
上野 早苗 (公募)  
中村 悦子 (公募)  
田岡 光生 (公募)

【欠席】

- 奥村 有紀子 (公共の団体：伊勢商工会議所)  
河井 英利 (公共の団体：伊勢農業協同組合)

- 事務局
- 藤本 宏 (環境生活部 部長)  
山本 佳典 (環境課 課長)  
角谷 晃 (環境課 主幹)  
古川 貴俊 (環境課環境対策係 係長)  
西井 有希 (環境課温暖化防止推進係 主事)  
大桑 和秀 (環境生活部 参事)  
林 歩 (ごみ減量課 副参事)

## 4. 概要

### (1) 開会

### (2) 議事

#### ① 第3期伊勢市環境基本計画（改定案）パブリック・コメント結果について

##### ○事務局による説明

- ・ 資料に基づき、パブリック・コメントの実施概要、意見募集の結果、意見内容及び市の考えについて説明

##### ○質問・意見等

- ・ 全体的には修正なしで問題ないと思う。No1で「公共施設の脱炭素化」と書いてあるが、公共施設という限定しているように読める。例えば、電気自動車の導入やプラスチックの削減など、施設以外の脱炭素もあると思うので、公共施設という表現をもう少し幅広く読めるように変えたら誤解がないと感じる。No4～6で「太陽光発電を設置するときの助成があった方が良い」という意見。No5と6は同じ回答だが、No4だけ「助成制度は令和2年度で終わっている」と書いてあり、書きぶりが違う。3つとも同じ表現の方が良いのではないかと感じた。No4の「制度を終えています」という言い方は冷たい感じがする。第1ステップは終わって、今は市が補助しなくても国の補助制度等があるので、国の補助制度にお任せして、市としては次の第2ステップで、更に前向きに、幅広く普及する方向に進んでいるというように読み取れる回答の方が、説得力があるのかなと思う。

⇒No1については、そのとおりでと思うので、公共施設の脱炭素化以外のところで、施設を持っていなくても各課で取り組めることも含めて修正したい。太陽光パネルについても、見ていただいた方にも共感いただける表現に変えたい。No5、6については、前向き回答の中で揃ってくるものと思うが、そちらも共感を得られるような表現に変えたい。【事務局】

- ・ 資料編は前と同じものを付けるのか？

⇒資料編については、そのまま変更なしとしたい。2年後の中間年の見直しでアンケート等を行う予定。【事務局】

- ・ 最近、「エコロジカルフットプリント」という言葉が出てきている。人類が地球環境に与える負荷の大きさを図る指標で、最近使われるようになってきている。これをア行に付け加えていただけないか？ 環境のことは、新しい言葉がどんどん出てくるので。

⇒用語解説は、計画の中で出てくるワードの説明になっている。次の改定の時に

は、国・県の考え方も示されたり、新しいワードもたくさん出てくると思うので、そちらで解説できればと思う。【事務局】

- No11 に対する答え。行政だけでない。私たちが夏場にチョコレートの付いたものまで洗って出すまでしない。行政だけでやるのではなく、「市民にも」という感じの中で、意識啓発や、我々が気をつけなければならないことを書いておいた方がよい。リサイクルの推進に取り組むことに巻き込んでいるように取れないことはないが、結局、環境は意識ですから、もう少し、市民が気をつけることを書いておくと良い。1250℃くらいでプラスチックを燃やすとダイオキシンは多分出ない。そういうことも踏まえて、新しい施設がどういうことで大丈夫というイメージが書ければよりありがたいと思う。

⇒市民を巻き込めるかどうかが重要になるので、例えば、「清掃工場の焼却となりますが」の後に、「市民自身による分別もお願いしたい」旨を追記させていただきたい。【事務局】

- 先日、テレビ番組で、清掃工場が大変発展しているという話があった。プラスチックを燃やしても有害物質が出ない工場で燃やしている。燃やす仕組みを見ていて、お金がかかるだろうと思ったが、できることを新しい清掃工場で行おうとしているのなら、そのことをしっかりと書いた方が良い。

⇒プラスチックごみは分別して資源化していこうという方向で、市としては進めている。燃やさない方向でCO<sub>2</sub>削減を進めている。【事務局】

- プラスチックごみのことで、リサイクルするプラスチックの汚れがどういうものか、一人ひとりの認識レベルが違うと思う。どれがリサイクルできないものなのか、市民に広く啓発をして具体的に知らせる必要があると思う。職場等でリーダーになる人の意識次第だと思う。リーダーがしっかりしていれば、職員や、職員の家庭でもリサイクルの認識がしっかり付くと思う。環境教育の徹底が、全体のレベルを上げるために必要と思う。

⇒プラスチックごみの分別・資源化については、予定では令和6年4月1日から全市で取り組もうと考えている。それに向けて、令和5年度は、一部地域で実証実験的にやってみようということで、一部の自治会にお願いしているところ。どういうプラスチックごみが出てくるのか、どういった汚れの具合の物が出てくるのか、資源化できるものかどうかは、集めてみないと分からないので、結果を踏まえて検証した上で、全市での回収に向けて市民の皆さんに分別方法をPRしていきたい。【事務局】

- トータルに考えないといけないということで、子どもの頃から教育している。

徹底できるということでは、小さい頃から学校等で教育していく方が良いと思う。大人に対してもずっと続けているが、なかなか浸透していかない。地域には一生懸命やられている方が多々いらっしゃるので、そういう人たちを起点にして考えたらどうか、ということで前から話をしている。これは非常に難しい問題。環境問題について関心が高まっているからこそ、それに乗じてうまく伝えていければと考えて、ここには書いてあるかと思うが、なかなか難しい問題で、ご協力を仰がなければならないと考えているところ。

- プラスチックが多くなって、燃えるごみよりもプラスチックごみの方が早くいっぱいになる。週1回のプラスチック、燃えるごみは週2回ということで、逆転している。何一つとってもプラスチックに入っている。分別の啓発について、保育所の啓発運動に行くと、子どもは何でも積極的に分かるが、年齢的に慣れてない人や職業を持つ女性が忙しい思いをしているので、そういった面でもそこに負担がかかってきている。うまくしてもらえようように回っていくといい。

No6、7にキエーロの意見がある。「生ごみ処理機の普及を進めています」とあるが、今までにあった電気でするものは、高い機械を買う、中に入れる物が要るということがある。コンポストは安価だが、蓋をして生ごみを入れるだけなので匂いがする、発酵して腐らない、土に還らない。その中で、キエーロは土の中に穴を掘って生ごみを入れて蓋をしておけば、1週間経つと匂いもせず土に還っている。2年10カ月使っているが、一度も土を捨てず、足さず、そのまま使っている。生ごみを減らそうというのであれば、良い方法が分かってきたのだから、そこをみんなに周知してもらおうような活動をしてほしい。No6、7でお二人が言っているのであれば、行政のやり方として取り入れてはどうか。ここはもう少し実質的な、自重的なことをお返事したり、市民にも周知した方がいい。

会議の前に、伊勢湾がきれいになり過ぎて漁業がうまくいかないという話をしていた。勢田川の下流では、護岸工事をするまでは、貝を採って食べて、自分も泳いで、海苔の養殖もできていた。その時は、スイカなどのごみを川に捨てていたこともあったが、川のアサリが食べられないということにはなかった。水洗トイレや下水道で勢田川がきれいになって、漁業がよくなってきた。元々の周辺環境を考えたら、どうしたらいいのかと疑問が湧いてくる。きれいになったのが良いのか悪いのか、解決の答えは出ないと思うが、みんなの考え方を少しずつ変えてやっていくので、No6、7は、そういうことを盛り込んで返事してもらおうとか、対策、方向、考え方を柔軟に、今に合うように、分かってきたことを、前のままでなくて、生ごみ処理機をしているというのを固くならず柔軟にしてもらえたらと思う。

⇒環境基本計画については、広く環境の基本的事項をまとめさせていただいている。ごみ処理施設の意見をいただいているが、主にプラスチックの部分でCO<sub>2</sub>排出を減らそうという記述になっている。ごみ処理については、ごみ処理基本計画で個別に検討するものと考えている。環境基本計画では、CO<sub>2</sub>に着目した回

答になるので、そういう回答にさせていただいている。

生ごみ処理機の利用の仕方が、コロナの頃から変わってきたと感じている。市では補助金を出しているが、電気式、ハイブリッド式の高価なものから、コンポストなど安価に済むものもある。人それぞれ、市が啓発する中で興味を持ってもらって購入されている。今後の戦略として、購入していただいた方に、利用してどういう効果があるかやアイデア自体を情報発信してもらいながら、興味を持っていただき、普及が進んでいければと考える。今後も、いただいた意見を基に、活用していただいた利用方法・効果を情報発信していきたい。キエーロも手軽に取り組めるものと思っている。情報発信に努めてまいりたい。【事務局】

- 環境そのものが大きく変化し、それに対応していかないといけない中で、良いものは取り入れていく。ただ、情報を得て、それが本当にどうなのかの検証が必要だし、いろんな人の意見も聞かなければならないので、時間がかかることかもしれないが、環境が変化していく一方ですので、なるべく迅速に対応しないといけない。いろんなアイデアを取り入れていければと思う。

- 要はバランス。ダイオキシンは県の扱っているテーマだが、世間の関心はあまり感じない。実際には、いろんな意味でダイオキシンは低減されているので、あまり気にしなくてもよくなった。プラスチックの焼却でダイオキシンの話があったが、今の焼却炉は、そこは気にしなくて大丈夫。分別もそうだが、実は分別し過ぎるとプラスチックがなくなるのでカロリーが足りなくなり、燃やすために燃料を焚くという話にもなる。CO<sub>2</sub>をターゲットにすると、何をしているか分からない。そこがバランスという話になる。水をきれいにし過ぎたという話もあったが、県では今回、水質の規制で下水道の部分を緩めた。規制一辺倒でやってきたところも、バランスを見ながら緩めているということもある。ペットボトルをペットボトルにリサイクルする動きが出てきた。これくらいの話なら良いのかなという感覚だが、紙コップを紙コップにリサイクルするという話が出てきた。紙コップを集め、静岡まで運んで、また紙コップとして返すという話。紙コップを送るための燃料、リサイクル処理にかかる手間とエネルギー、紙コップにして持って帰ってくる手間とエネルギーが必要で、一つ50円や100円になった環境にやさしい紙コップを使ってもらえるのかということとどうか。行き過ぎるとよくない。時代とともに平均点という意味では少しずつ良い方に行くであろうが、バランス感覚みたいなところは、当局側としては意識をしないといけない。声の大きい人の意見に引きずられることは多々あると思うが、そういうところはしっかり吟味して作ってほしいというのが感想。

⇒確かにバランスは大事。ごみの焼却で出されているプラスチックはわずか8%であり、それでカロリーを稼いでいるわけではない。パブリック・コメントでもごみの焼却発電施設をプラスチックでやっているかのようなご意見をいただいているが、プラスチックで発電するわけではなく、大部分が生ごみや紙で発電し

ている。プラスチックがないから重油を焚くということではない。焼却そのものも、最初の火付けでは重油、ガスを使うが、ある程度熱をもった段階で燃えている温度で次々とごみを燃やしていくという形になっている。【事務局】

- 分別がかなり浸透しているということの裏返しでもあり、良いことだと思う。そこも程度問題で、行き過ぎると問題があるという程度の話。

- 何事もバランスが必要。市民の方々に情報公開をきちんとして、納得する、しないは別として、市としてはしていけないといけないと思う。それが無いがゆえに、いろんな憶測が出てきていることになる。できれば、定量的に、このくらい燃やしている、どうしても廃棄してしまう等の情報はいる。それで、これからどうしていくのかという問題だと思う。何が良いという答えがないものなので、一番良いところを探り合いたいと思っている。

- 再生可能エネルギーの導入について、太陽光発電が優等生的に出ている。太陽光発電は各家庭でできる容易さがあるが、パネルの時期がきたとき、あと5年・10年くらいで第1期の廃棄物がどのように今後処理されていくのかという不安もある。市としても、太陽光発電の設備の寿命がきて、廃棄されるものの処分の方法の把握をして運動を進めていくのか。太陽光発電のパネルなどはリサイクルできるのか。

- 少しずつ確立しつつあるレベルと考えていただければよい。基本的には、半導体、ガラス、金属なので、分別すれば問題になるのは半導体の部分ぐらい。金属は金属、ガラスはガラスで流通していく。県内でも太陽光パネルの再生事業がある。愛知県にもできているようだし、少しずつ進んでいっている。ニーズがあれば研究されて動いていくので、そんなに心配しなくてもよいというのが県の産廃担当としての考え方。

- 昔は3Rと言っていて、リデュース、リユース、リサイクルと言っていた。2019年に日本では、プラスチック資源循環戦略を策定している。その時に「リニューアブル」という言葉がある。再生プラスチック、再生可能資源の活用、そこがよく知られていないので、一体どうなっているのかと感じている。リニューアブルという言葉を入れて再編集していただきたい。

⇒3Rが広く使われている。5R、6Rという考え方もある。2年後の改定に向け「R」に取り組んでいけたら。環境基本計画では大きく捉えて、一つ一つは個別計画で取組を進めたい。一番身近なところでは自治会への説明など、ごみを出さない生活をしていただける啓発に取り組む必要があると考える。【事務局】

- 会長も言われたように、回答が定性的な話だけにとどまっていて定量的な話

がない。先程のプラスチックを燃やすことについても市はデータを持っている。定量的なデータが市にあるのであれば載せて回答した方が良い。一つ質問だが、今でもプラスチックごみは燃やしているのか？

⇒容器包装は分別リサイクルしているが、できないものは燃やしている。【事務局】

- 新しいごみ処理施設を作ったからといって、今までとごみの処理方法が変わるわけではないということですね。

⇒新しい法律に基づいて、製品プラスチックの分別回収を行い、燃えるごみとせずに資源化を図る方向で進めている。【事務局】

- 現状は燃やしている、それをこれから分別していく。今よりプラスチックごみが減るのであれば全然問題ない。もう一つ、プラごみ循環法はプラスチックごみを燃やすことを禁止しているのか？

⇒分別資源化については、各市町村の努力義務となっている。【事務局】

- リサイクルできないものは燃やすしかないですよ。埋めるのも一つの手段としてあるが、それは一時的なもので限界がある。燃やすのが最適解かと思う。「しょうがないです」という回答が必要な気がする。

- 様々な意見をいただきましたが、それを踏まえ、今回の審議会としては、この計画案でいくということで進めていくことにしたいと思う。その他、何かありますか？

- 「雑紙」という書き方は疑問に感じる。何か良い表現の仕方がないか、2年後までに考えたいと思う。

⇒今後、改定していく中で、適切に使えるタイミングで修正していくものと考え。ごみ処理基本計画との役割分担の中でやっているの、計画同士で連携を取りながら表現は適正化していくものと考え。副会長からご意見もいただいたが、ごみ処理基本計画でもパブコメを行っており、同じ内容の質問をいただいているので、回答の役割分担も考慮した上で変更は検討したいと考える。【事務局】

- 「粗大ごみの回収」とあるが、「粗大ごみ」なのか、「粗大廃棄物」なのか？再利用する分もあり、そのまま環境フェアでほしい人にもらってもらおう取組も行っている。「粗大ごみ」という表現についても考えていけたら。

⇒ご意見を参考にさせていただきたい。【事務局】

- 「ごみ」という表示をするので。捨てたらもったいないものもたくさんある。「粗大ごみ」というのが引っ掛かる。隣を通ったり、走ったりすると、もったいないと思う。

⇒「雑紙」もまだ新しい呼び名。「これまでリサイクルできなかった紙類」という表現も良かったのかもしれないが、さらに現在、雑紙以上の物、伝票やガムの銀紙などの「禁忌品」と仮称で呼んでいるような、さらなる資源化できるものも出てきている。「粗大ごみ」「雑紙」という呼び名で浸透してきたが、「ごみじゃない」と言われるのももったいなく思う。検討していきたい。【事務局】

- スーパーや商店の冷凍庫・冷蔵庫の扉のない状態を、扉を閉めたらどれだけCO<sub>2</sub>が削減できるかと思う。行政から指導できることはないか。

⇒指導は難しいと思う。これから、それぞれが主体的にCO<sub>2</sub>排出の把握をしたり、それを減らしたり、それぞれの主体で話し合っ、やれることからやっていく。新しい技術が生まれたら、省エネ型の冷蔵庫など、その改修で国が補助金を案内している、というような流れの中で取り込まれるのではないかと思う。それを広く、いかにして盛り上げていくかが私共の役割と考えている。【事務局】

- 電力をすごく使っていると思う。食料品売り場へ行くと、コートを着ないと寒くていられないくらい。扉を閉めていたら、保存状況もいいし、電力を使わなくてもよくなる。照明を落とすより蓋をした方がよっぽどCO<sub>2</sub>削減になると思う。行政から働きかけることができたら、お願いしたい。

⇒ご意見いただいたこと、機会があればお伝えしたいと思う。【事務局】

- ありがとうございます。いろいろご意見をいただきましたので、今の議題に関する審議は終了します。

### (3) その他

○事務局より今後のスケジュールについて説明